

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第15号

茶のカンザワハダニの発生について

昨年末から1月中旬まで高温傾向が続いたため、カンザワハダニの越冬量が平年・前年より多くなっています。今後1カ月の気象予報でも、気温は平年より高い見込みで、気温の上昇とともにさらに多発することが予想されます。

茶園での発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。

1 対象作物名：茶

2 病虫害名：カンザワハダニ

3 発生状況

2月5半旬調査の結果、裾葉での発生量は平年・前年よりも非常に多く、特に平坦地で多発していた。また、ふ化幼虫が発生している園も見られた。

(裾葉)

寄生葉率 9.2% (平年 3.3%、前年 0.3%)
50葉当たり虫数 10.1頭 (平年 3.7頭、前年 0.2頭)
発生ほ場率 80.0% (平年51.8%、前年16.7%)
孵化幼虫の発生ほ場率 40.0% (平年11.2%、前年16.7%)

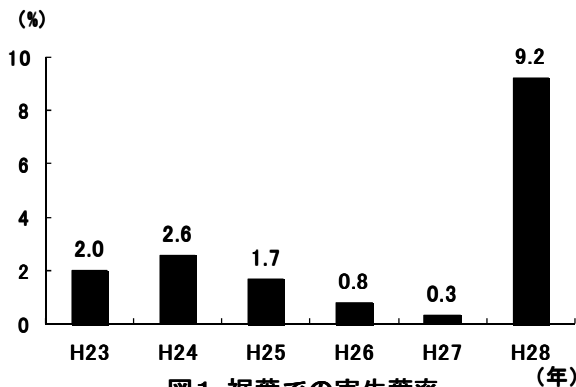


図1 裾葉での寄生葉率

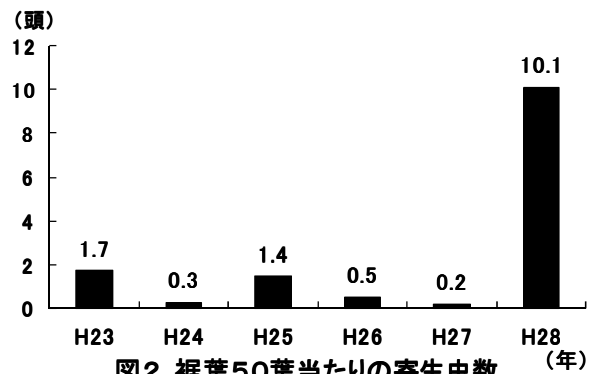
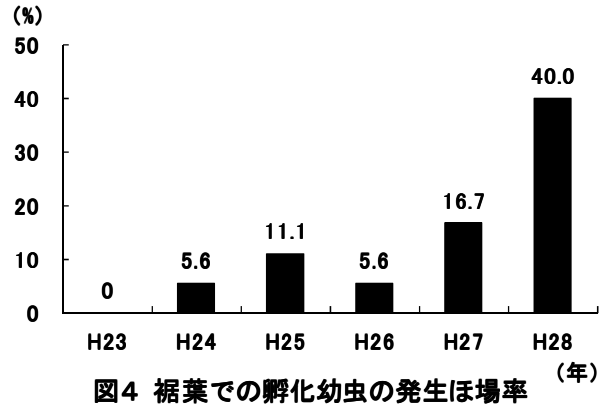
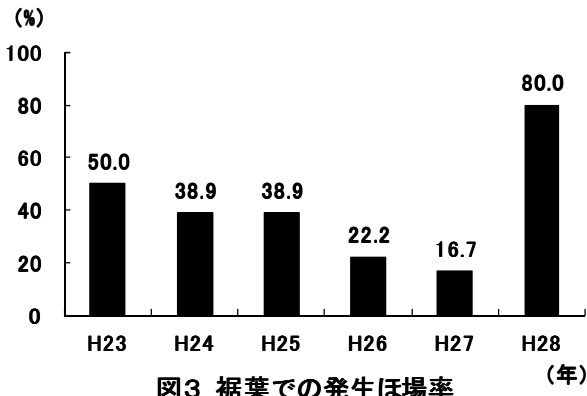


図2 裾葉50葉当たりの寄生虫数



4 防除上注意すべき事項

- ア 裾葉を中心に発生状況をよく観察し、越冬成虫の寄生葉率が2%以上である場合は、効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。
- イ 春期の基本防除は、孵化幼虫の発生初期をねらって、平坦地で3月中旬、山間地で3月下旬を目安に徹底する。
- ウ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- エ 同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。